

ツインタワーから目と鼻の先にありながら、マレーシアの田舎の暮らしが色濃く残るカンポン・バル。マレー語でカンポンは村、バルは新しいという意味です。今となっては古き村ですが、100年以上も前にこのエリアが作られた当時は「新しい村」だったわけです。その後KL中心部は都市開発が進みつつも、このエリアは開発の対象から外されてきましたが、残念なことに近頃では少しずつ開発の手が入り、カンポン・バルが変わりつつあると注目を浴びています。そこで、KL市役所 (DBKL) 主催のウォーキングツアーがあるということで、編集員の有志でこのツアーに参加してきました。週に3回、この地域を無料で案内してくれるツアーです。カンポン・バルには7つの村があり、それぞれ同じ地方出身者で形成されているため、各地方の文化・特色が上手に残されており、ツアーに参加してみないと分からない魅力がたくさんありました！



1 このツアーの集合場所となっている Kelab Sultan Sulaiman。ソーシャルクラブとして 1901 年に設立された。



クラブには駐車スペースがないので、周辺の路上駐車スペース或いは目の前の Quill Mall 駐車場を利用。



セカンドリースクールの前を通ったら女子生徒たちが元気一杯のアクションを！なんてフレンドリーなんですよ。



道端で出会う子どもたちの目の輝きが印象的。



2 この家を建てた Haji Ahmad bin Mohamad さんは英語学校の校長で、ローカルの方は親しみを込めてマスター・マットと呼んでいる。現在は彼の子孫が住んでいる。デザインは、コンクリートの柱と欄干付きの階段のあるマレーのパラディオ様式\*。\*16世紀のイタリアの建築家パラディオの様式を踏襲したデザイン。



マレー人の多いエリアに猫がたくさんいるのは常。村のあちこちで猫が心地よく暮らしている。



3 2007年にオープンしたこのギャラリーでは、マレーの植民地時代初期からの政治的苦難の歴史を展示している。この建物はスルタン・スレイマン・クラブの二代目のレプリカ。入場無料。







ガイドツアーで歩くコースには交通量の多い通りもあるので、小さなお子様連れの場合はかなり注意が必要!



カンポン・バルには Food Trails\* で紹介されているレストランがたくさんある。こちら是非試してみたい。\*KL 市役所 (DBKL) 主催で味の名所を巡り歩くプロジェクト。



サラワク州のスイーツ各種。どれも甘すぎず美味しい。



マレー風春巻き。皮はパリパリ、具は優しいお味。

4 このストリートではマレーシア各地の様々な料理が見られる。地方から集まってきた人たちが、各々の郷土料理を提供しているからだ。



5 カンポン・バルのマレー集落の中でも最も大きな伝統的家屋の一つで1949年に再建されたもの。一階部分は石の柱で造られており、特徴的な屋根のデザインが当初のまま維持されている。



ここは都市の内外で生活するマレーの人たちのため、1930年につくられた交易場だった。昔ながらのソッコ(帽子)店、床屋、靴の修理屋などを見ることが出来る。



ケロポはトレンガヌを代表する魚の揚げ菓子。



6 残念ながら開発が始まってしまったエリア。昔ながらの集落が撤去された跡を訪れ、何とも寂しい気持ちになった。



マレー菓子の一つであるピサンゴレン(バナナフリッター)。揚げたては衣がサクサクで自然の甘みが引き出された味。



こちらにも伝統的マレー家屋。家の周りには様々な果物の木が植えられているのも特徴。





南国フルーツが一堂に会する屋台を発見。



8 マレーシア産の様々なハーブで作られた製品を扱う店。ザムザム（神聖な水）、アラビア文字を用いたアート、お祈りのアイテム等も揃っている。



9 ラジャバットマーケットやストリートバザーの隣には、KLのシーク教徒（16世紀に興ったヒンドゥー教の一派）のための礼拝所や宗教学校がある。この学校ではパンジャブ語も教えている。この大きなダイニングエリアでは、日曜日に無料のベジタリアンランチが提供されるそう。



10 ラジャアン通りのナイトマーケット。フルーツと野菜の種類の多さにはビックリ！朝の6時半まで開いていると聞いて二度ビックリ！



マイナーな食材も所狭しと並んでいる。料理好きにはたまらない。



資料を使いながら丁寧に説明してくれたジェーンさん。週3回のツアーは5名のガイドが交替で担当している。説明は英語のみ。

## 行列のできるナシレマ屋 Nasi Lemak ANTARABANGSA

カンポン・バルのフードストリートには、知る人ぞ知る有名なナシレマ屋があります。その名は、「Nasi Lemak ANTARABANGSA」。カンポン・バルが動き出す夕方にオープンし、夜遅くまで行列が絶えません。

「ナシ（ご飯）」か「ミー（麺）」を選び、好きなおかずを選んでいくスタイル。おかずの種類が沢山あるので迷ってしまいます。最後にサンバルソースをドバッとかけられるので、辛いのが苦手な方は少な目にしてもらいましょう。

お値段は、「ナシ+肉+野菜+たまご」でRM7前後。ボリュームも味もグッドです！ また、通りに面したお店でローカルな雰囲気もばっちり。ココナッツレモンジュース（RM3）も是非ともオーダーしたい一品です。



Jalan Raja Muda Musa は交通量が多くお店前の駐車は不可



ご飯がふっくら、美味しい！これでRM7



ドリンクはココナッツレモンがお薦めRM3

### 住所：

4 Jalan Raja Muda Musa  
Kg Baru 50300  
Kuala Lumpur

### 営業時間：

月～日 17:00 - 24:00

## Jalan-Jalan @ Kampong Bharu カルチャルガイドウォーク

開催日：毎週 火曜・木曜・日曜

開催時間：16時半～19時

参加申込：参加当日16:15～16:30

予約：(Tel) 03-2698-0332  
(Email) pelancongan@dbkl.gov.my

参加費：無料

集合場所：Kelab Sultan Sulaiman  
Jalan Dewan Sultan Sulaiman,  
Kampong Bharu, KL

Kelab Sultan Sulaimanまでの最寄り駅：  
Medan Tuanku 駅（クラブまで徒歩15分）

持ち物：飲料水、雨傘、雨カッパ、帽子

\*動きやすい服装と靴で

\*各ツアー先着25名 / 24時間以上前の予約をおすすめします

この地域は、150年前に5代目スルタンのスルタンスライマンが、220エーカーの土地を寄付したことによって作られたそうです。初めはこの地域を農業の発展のモデル地域にしようと組織されたのですが、マレー人は制服関係の仕事＝政府関係の仕事に就きたいという人が多く、農業を振興させようとする政府の意図は失敗に終わりました。

当時この地域には、スマトラ、マラッカ、ミナン島など様々な地域から人が集まり7つの村を組織しました。それぞれに村長が存在し、7つの村を統治する委員会もおかれています。今も話し合いによってこの地域が運営されているとのこと。

7つの村があり、それぞれ違う民族が固まって住んでいるため、いろんな文化が入り混じっているのがこのカンポン・バルの魅力。ある村では、高床式の家屋、また別の村では床は地面についた形で建設されています。窓上の飾り模様も、村ごとにそれぞれ特徴があります。食べ物もしかり。この地域に来れば、マレーシア各地の食べ物を味わうことができます。

いろいろなマレーの民族が集まって独特の町並みを作り上げているカンポン・バル、是非在中に訪れていただきたいお薦めのスポットです。